

FUJITSU Software ServerView Suite ServerView Infrastructure Manager ドキュメント修正事項

2015 年 12 月
富士通株式会社

FUJITSU Software ServerView Suite ServerView Infrastructure Manager のマニュアルの内容に修正事項がございます。ここに謹んでお詫び申し上げますとともに、以下の対象となるドキュメントをご覧になる際には、下記に示します内容を合わせてお読みくださいますようお願い致します。

- FUJITSU Software ServerView Suite ServerView Infrastructure Manager V1.10 ユーザーマニュアル (共通編)
- FUJITSU Software ServerView Suite ServerView Infrastructure Manager V1.10 ユーザーマニュアル (プロファイル管理機能編)
- FUJITSU Software ServerView Suite ServerView Infrastructure Manager V1.10 ユーザーマニュアル (ファシリティ管理機能編)

■ FUJITSU Software ServerView Suite ServerView Infrastructure Manager V1.10 ユーザーマニュアル (共通編) に対する変更・追加

1.2 章 システム要件

以下の通り読み替えをお願い致します。

削除:

項目	説明
管理用仮想サーバ	
使用ポート	- 443、427(TCP、UDP)

追加:

項目	説明
管理用仮想サーバ	
使用ポート	- 623(UDP): IPMI - 5989(TCP)または 5988 (TCP):CIM

1.3 章 使用可能文字について

ISM V1.12 では使用できる文字が変更されています。

ISM 登録データ作成時に使用できる文字は、SVOMに準拠します。

全角文字や記号(" # & ~ | ¥ + * ? / ; , () など)、空白は使用できません。

ただし、Notes 部分のみ半角英数字、全角英数字、全角ひらがな、全角カタカナ、または JIS 第一水準、JIS 第二水準漢字を使用できます。

追加: 機器の管理ネットワークおよび管理 OS のパスワードに対して、引用符()、二重引用符(")、円記号(¥)、半角スペース()を除く ASCII 文字を使用することができます。

3.1.3 章 ISM V1.10 のインストール

- DHCP サーバ機能のインストール

プロファイル管理の全機能を利用するためには、DHCP サーバが管理サーバ上で動作している必要があります。ネットワーク構成上の問題がある場合を除いて、ISM のインストール前に Windows の「役割と機能の追加」を利用して「DHCP サーバ」を有効にしてください。

DHCP サーバの構成に依存するプロファイル管理機能の制約に関しては 11 ページの「3.1.4 PXE サービスのインストール」に記載された表を参照してください。

- ISM インストール時にログ収集場所のパスを変更した場合の設定

ISM V1.12 以降で、インストール時にログ収集場所を変更した場合、手順 9 は不要です。

■ FUJITSU Software ServerView Suite ServerView Infrastructure Manager V1.10
 ユーザーマニュアル (プロファイル管理機能編) に対する変更・追加

2.2.7 章 OS インストール

下表のインストールに対応しました。OS プロファイル新規作成画面およびデータインポート画面で選択可能なOSが追加されています。

- ・VMware ESXi 5.5
- ・Windows Server 2012 R2 Standard (Full/Core)
- ・Windows Server 2012 R2 Datacenter (Full/Core)

付録 A サーバ用 HW プロファイルの設定項目

サーバ用 HW プロファイルに下表の設定項目が追加されています。

本設定は BX920 S4, BX924 S4, RX200 S8, RX300 S8 の BIOS R1.3.0, iRMC ファーム 7.19F 以降が適用された装置でのみ動作します。それ以外の装置に対しては HW プロファイル上で項目を無効化してください。

タブ	項目名	意味	設定値
BIOS	NUMA	NUMA(Non-Uniform Memory Access)機能の利用有無を指定する。 マルチプロセッサ構成でない場合は意味を持ちません。	Enabled=機能を有効にする Disabled=機能を無効にする

3.4 章 プロファイル適用動作設定

コマンドライン操作例を以下のとおり訂正します。

誤	<pre>net user ismuser * /add (パスワードの入力) wmic useraccount where Name="ismuser" set PasswordExpires=FALSE mkdir "C:¥ismshare" net share ismshare="C:¥ismshare" /GRANT:"ismuser, FULL"</pre>
正	<pre>net user ismuser * /add (パスワードの入力) wmic useraccount where "Name='ismuser'" set PasswordExpires=FALSE mkdir "C:¥ismshare" net share ismshare="C:¥ismshare" /GRANT:"ismuser, FULL"</pre>

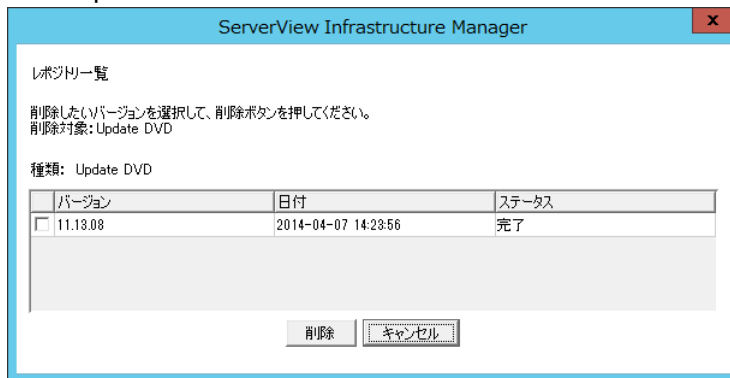
2.2.4 章 ファームウェア/BIOS アップデート

複数の版数の Update DVD をインポートしてそれぞれの版数をレポジトリに保存する動作に変更しました。
HW プロファイルでファームウェアアップデートを指示した際の動作が変更になっています。

旧 V1.10	最後に取り込んだデータが使われず。
新 V1.12	インポートされている Update DVD の中で、最新版の Update DVD のデータが使われます。

4.13.3 章 各種 DVD のデータインポート

複数の版数の Update DVD をインポートしてそれぞれの版数をレポジトリに保存する動作に変更しました。
データインポート実行画面に追加された「レポジトリ一覧」ボタンにより現在インポート済みの版数が画面表示されます。Update DVD については任意の版数を削除する機能が追加されました。



●データインポート可能な媒体

インポートする媒体(iso イメージ)は以下を使用してください。

対象 DVD	使用可能範囲
SVS DVD (ServerView Suite DVD)	V11.13.12 以降 ※インポートは V11.13.10 以降に対応。ESXi 5.5 のインストール時は V11.13.12 以降。
Update DVD	V11.13.10 以降
VMware ESXi 5.5	富士通提供媒体

3.1 章 ネットワーク設定

●IP アドレス範囲設定(DHCP 設定)の設定条件変更

プロファイル管理機能を利用するさいは[DHCP 設定]画面で4種の IP アドレス範囲を設定します。

The screenshot shows the DHCP configuration interface with the following fields and callouts:

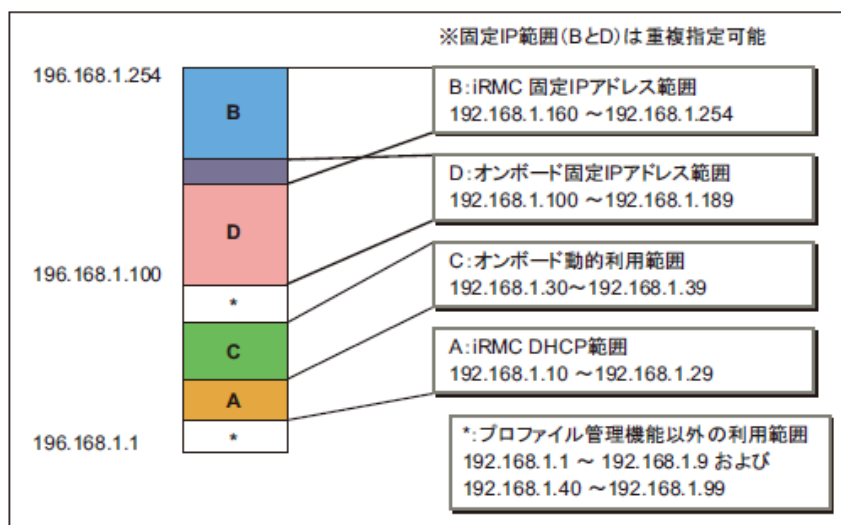
- A:** 貸出IPアドレス範囲 (Lease IP address range) set to 192.168.1.240 ~ 192.168.1.249.
- B:** BMC(iRMC)固定IPアドレス範囲 (BMC(iRMC) fixed IP address range) set to 192.168.1.2.
- C:** サーバ管理LAN固定IPアドレス範囲 (Server management LAN fixed IP address range) set to 192.168.1.101 ~ 192.168.1.199.
- D:** システム管理IPアドレス範囲 (System management IP address range) set to 192.168.1.230 ~ 192.168.1.239.

Other fields include: スコープ名 (Scope name): Scope1, サブネットマスク (Subnet mask): 255.255.255.0, ネットワーク番号 (Network number): 192.168.1.0, ゲートウェイ (Gateway): 192.168.1.1, DNSサーバ (DNS server), and DNSドメイン名 (DNS domain name).

範囲	利用元	利用形態	用途
A	iRMC	DHCP	新しく接続されたサーバの iRMC が DHCP によって IP アドレスの貸し出しを要求したさいに、DHCP サーバによって貸し出される IP アドレスの範囲を設定する。
B	iRMC	固定	サーバ登録時に画面から指定する iRMC 用の固定 IP アドレスの範囲を指定する。手動検出を行う場合は手作業でこの範囲の IP アドレスを iRMC に設定しておく。
C	オンボード	動的利用	プロファイル適用時の PXE ブートのために一時的にオンボード LAN に割り当てる範囲を設定しておく。OS プロファイル適用時にオンボード LAN の IP アドレスが指定されている場合は本範囲ではなくプロファイルに記載された IP アドレスが使用される。
D	オンボード	固定	OS インストール後にオンボード LAN(管理 LAN)で使用される IP アドレスの範囲を設定する。

[V1.10 の設定] 4種の IP アドレス範囲のうち2種(下図 B,D)だけが重複設定可能となっていました。

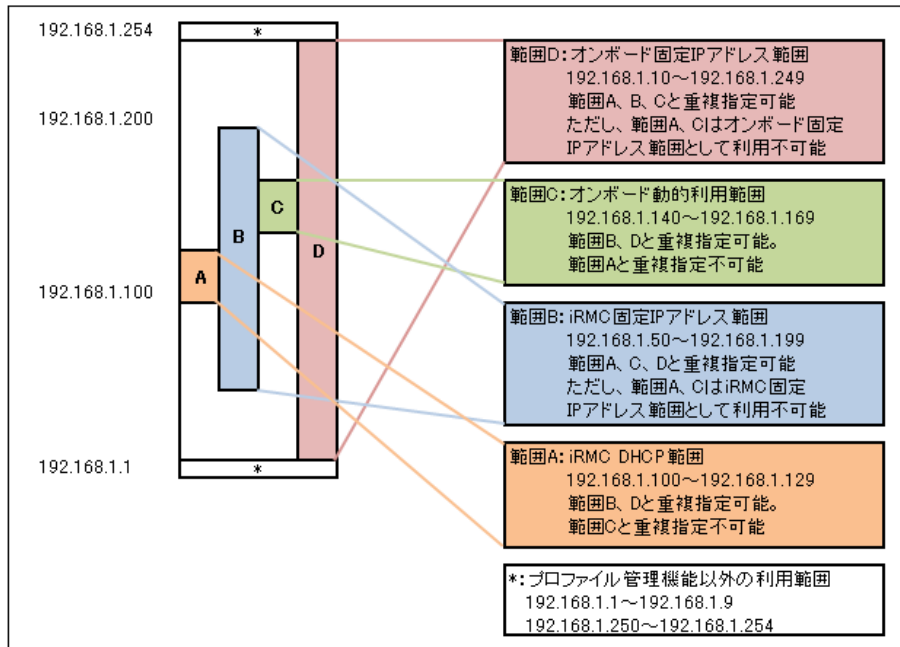
IPアドレス範囲の定義例



[V1.12 の設定] 下図の例のようにそれぞれの範囲を重複した設定も可能となります。ただし A と C を重複させることはできません。

範囲を重複して設定した場合、IP アドレスが重なった部分を正しく扱うことは利用者の責任となります。例えば下図では 192.168.1.100 は範囲 A,B,D のそれぞれに所属しますが、範囲 A(DHCP)に利用されるため、オンボード/iRMC の固定 IP アドレスとして指定すると正しく動作しない場合があります。

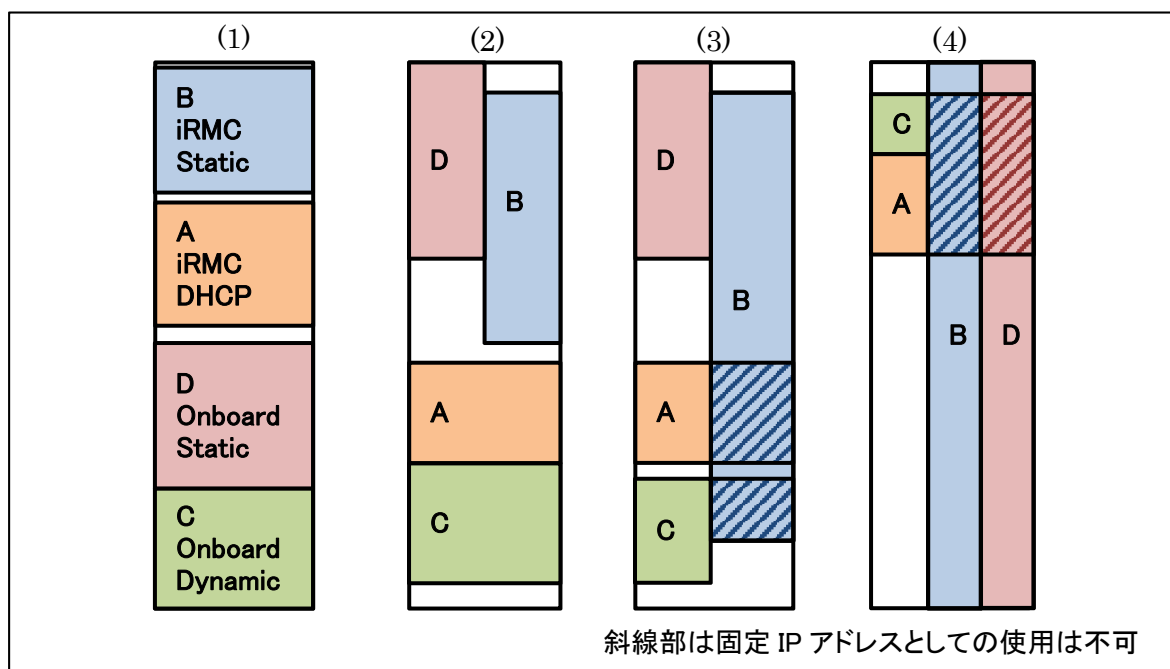
IPアドレス範囲の定義例



その他の定義例を下図に示します。

- (1) 各設定を独立した範囲に指定
- (2) 固定 IP アドレスの一部だけが重複
- (3) 固定 IP アドレス(B)に DHCP(A)と動的範囲(C)が重複
- (4) サブネットの全範囲を固定 IP アドレスとして設定。

その他の定義例



■ FUJITSU Software ServerView Suite ServerView Infrastructure Manager V1.10 ユーザーマニュアル (ファシリティ管理機能編) に対する変更・追加

1.2 章 使用可能文字について

ISM V1.12 では使用できる文字が変更されています。

ISM 登録データ作成時に使用できる文字は、SVOM に準拠します。

全角文字や記号 (" " # & ~ | ¥ + * ? / ; , () など)、空白は使用できません。

ただし、Notes 部分のみ半角英数字、全角英数字、全角ひらがな、全角カタカナ、または JIS 第一水準、JIS 第二水準漢字を使用できます。

追加: 機器の管理ネットワークおよび管理 OS のパスワードに対して、引用符 (')、二重引用符 (")、円記号 (¥)、半角スペース () を除く ASCII 文字を使用することができます。

2.1.1 章 システム全体

以下の通り読み替えをお願い致します。

誤: ISM の監視範囲は、Cloud Ready Blocks Enterprise 構成の PRIMERGY BX900 S2 シャーシ、PRIMERGY RX200 S8、ETERNUS DX100/DX200 S2、ネットワークスイッチ (搭載されたハードウェアおよびソフトウェアを含む) です。

正: ISM の監視範囲は、Cloud Ready Blocks Enterprise 構成の PRIMERGY BX900 S2 シャーシ、PRIMERGY RX200 S8、ETERNUS DX100/DX200 S3、ネットワークスイッチ (搭載されたハードウェアおよびソフトウェアを含む) などです。

誤: ISM から Cloud Ready Blocks Enterprise を監視するために、本ソフトウェアがインストールされた管理用仮想マシンから PRIMERGY BX900 S2 に搭載されたマネージメントブレード (以降 MMB と表記) および各サーバブレードと、SNMP サービスおよび WMI で通信する必要があります。

正: ISM から Cloud Ready Blocks Enterprise を監視するために、本ソフトウェアがインストールされた管理用仮想マシンから PRIMERGY BX900 S2 に搭載されたマネージメントブレード (以降 MMB と表記) などと通信する必要があります。

3.1.1 章 ツールの起動

Cloud Ready Blocks のタイプ毎に登録データ作成ツールのファイル名が異なります。

装置に添付されている「FUJITSU Integrated System Cloud Ready Blocks Enterprise Model Documents & Tools DVD」に格納されているファイルを使用してください。

3.1.2 章 構成情報の編集

監視対象機器 SR-X324T2 の追加

Page11 「構成情報の編集」-「構成情報一覧項目説明」

SR-X324T2 に対しては、以下を参照して構成情報一覧の編集を行ってください。

項目	設定	変更	説明
FacilityName			機器名を指定。
SR-X324T2	必須	禁止	SR-X324T2 名称を指定。 初期設定値は各シャーシの Sensor 番号に対応する値。対応は以下のとおり。 Sensor 番号: 初期設定値 51: SRX324_*
ParentName			親機器名を指定。
SR-X324T2	必須	禁止	SR-X324T2 親機器名を指定。 初期設定値は、SR-X324T2 の Sensor 番号に対応する値。対応は以下のとおり。 51: 空白 55: SRX324_*
NetAddress			IP アドレスを指定。
SR-X324T2	必須	可	SR-X324T2 の IP アドレスを指定。 初期設定値: 192.168.100.3, 192.168.100.7, 192.168.10.11
Type			機器種別を指定。
SR-X324T2	必須	禁止	初期設定値: 15 Type 番号: 説明 15: Switch
Sensor			センサー番号を指定。
SR-X324T2	必須	禁止	各スイッチに対し以下のセンサー番号をすべて指定。 初期設定値は以下の通り。 Sensor 番号: 説明 51: 吸気温度 55: 消費電力
Port/SlotNo			ポート/スロット番号を指定。
SR-X324T2	必須	禁止	初期設定値: 0
RackNumberUnits			ラック内の占有ユニット数を 1~50 で指定。
SR-X324T2	必須	禁止	ラック内の占有ユニット数を指定。 初期設定値: 1

Model			[FacilityName]が指定されている行に、機器のモデル名を英数字で指定。	
	SR-X324T2	任意	可	初期設定値: テンプレートに設定されている値
System			[FacilityName]が指定されている行に、システム名を英数字で指定。	
	SR-X324T2	禁止	禁止	空白
ProductNo			[FacilityName]が指定されている行に、機器の型名を英数字で指定。	
	SR-X324T2	任意	可	初期設定値: PXC0624A01
Application			[FacilityName]が指定されている行に、コンテキストメニューや機器クリックにより起動する、Web アプリケーション URL を指定。	
	SR-X324T2	任意	可	SR-X324T2 URL を指定。 初期設定値: http://192.168.100.3, http://192.168.100.7, http://192.168.100.11

3.6 章 FirstSight 情報設定ツール

FirstSight 情報設定ルールには SR-X324T2 が追加されています。

以下を参照して情報の設定を行ってください。

登録する機器名	必要な情報
PRIMERGY BX900 S2 シャーシ	MMB の IP アドレス 機器が属するグループ名
PRIMERGY RX200 S8	iRMC の IP アドレス 機器が属するグループ名
ETERNUS DX100/DX200 S3	コントローラーの IP アドレス 機器が属するグループ名
Converged Fabric Switch SR-X324T2	管理 IP アドレス 機器が属するグループ名

3.6.2 章 グループ内機器の新規登録

以下の通り読み替えをお願い致します。

誤:グループ内機器に登録できるシャーシは1つだけです。[タイプ]で[Chassis]を選択した機器を複数追加することはできません。

正:Cloud Ready Blocks Enterprise 構成において、グループ内機器に登録できるシャーシ数に制限はありません。

4 章 ログ収集機能の設定

- 表の監視箇所について

誤:MMB,各スイッチブレード(FC,CFB)

正:MMB、FC スwitchブレード、コンバインドファブリックスイッチブレード

- 収集するログについて

誤:SEL,ファイバーチャネル(FC)/コンバインドファブリックスイッチブレード(CFB)のログ

正:SEL,ファイバーチャネル/コンバインドファブリックスイッチブレード/コンバインドファブリックスイッチのログ

- PRIMERGY RX シリーズの”収集するログ”の記述ミス(SEL 削除) Page28 ログ収集機能設定表

監視対象	機能	収集するログ	必要な設定
PRIMERGY (RX シリーズ)	ログ収集	ホスト OS ログ	4.1 ログ収集対象の設定
	ログ監視	ソフトウェアの	4.2 ログ転送の設定
	異常通報	ログ	4.3 異常通報の設定

- 監視対象に SR-X324T2 が追加 Page28 ログ収集機能設定表

ISM 1.12 版より LAN 集約スイッチの監視対象に SR-X が追加されます。

監視対象	機能	収集するログ	必要な設定
LAN 集約スイッチ (CFX、SR-X シリーズ)	ログ収集	ログ	4.1 ログ収集対象の設定

4.4 章 通報メッセージ

通知メッセージ(Trap)項目説明の※1の内容

前:イベントログまたは ESXi のログから先頭の日付だけ抜き出したもの。

後:イベントログまたは ESXi のログから日付・時刻を抜き出したもの。

4.5 章 異常発生時の対処

- ハードウェアの異常(ファイバーチャネルカード/コンバージドネットワークアダプタ/内蔵 LAN/SCSI デバイス)

誤: ログ収集が通報した場合も ServerView Agent と同様の対処を行います。

故障箇所は、Trap または Mail 情報の[通知メッセージ]にあるバス情報(yyyy:xx;xx.x)/デバイス名(vmnicX、vmhba など)から特定します。

正: ログ収集が通報した場合も ServerView Agent と同様の対処を行います。

- 管理用仮想マシン上のソフトウェア異常

誤: Trap/Mail 情報の[故障箇所]に表示される内容が、異常が発生しているソフトウェアです。

「5.3.2 [ログ収集]画面」で、ホスト名が「Infra_Manager」の機器から各ソフトウェアのログを収集して対処します。

正: trap/mail 情報の”故障箇所”が異常が発生しているソフトウェアになります。

問い合わせが必要な場合には、ISM のログ収集画面からログをダウンロードしてください。

4.6 章 収集したログ

スイッチ/ストレージの収集ログに SR-X324T2 を追加

ISM 1.12 版よりスイッチに以下のように SR-X324T2 が追加されます。

スイッチ/ストレージ(CFX2000R/ SR-X324T2/ETERNUS DX100/DX200)

誤: PRIMERGY BX900 の MMB と CFB/FC スイッチブレード

正: PRIMERGY BX900 の MMB と FC/コンバージドファブリックスイッチブレード

5.1 章 [Facility Manager]画面

SR-X324T2 に対しては以下の詳細情報およびプロパティ画面でのセンサー表示が行われます。

Page44 [Facility Manager] 画面 - 詳細情報 項目説明

項目	説明
	SR-X324T2
名称	名称を表示
ステータス	「正常」、「警告」、「異常」、「無応答」のいずれかのステータス
モデル	モデル名を表示
IP アドレス	IP アドレスを表示
搭載位置	ラック内の搭載位置を表示
接続 PDU	未サポート
CPU 温度	対象外
吸気温度	吸気温度を表示(°C)
消費電力	消費電力を表示(W)
識別灯	対象外

Page47 [Facility Manager] 画面 - ラック搭載機器 プロパティ項目説明

機器	センサー
SR-X324T2	吸気温度(°C)
	消費電力 (W)

5.1.2 章 [FirstSight]画面

- FirstSight の利用に関して

本ソフトウェアの起動やサーバ選択時、「更新」ボタン押下時には、数十秒から構成によっては最大約 1 分程度かかる場合があります。

5.3.2 章 [ログ収集]画面

管理用仮想マシン(ISM がインストールされている仮想マシン)上のログ(イベントログ、SVS のログ)はホスト名が”Infra_Management”である行からダウンロード出来ます。

- Log Collect and Checkerの利用に関して

定期収集ログは AM1 時に収集され、AM3 時にアーカイブされ ServerView Infrastructure Manager の”ログ収集画面”よりダウンロード可能になります。ただし、ログのサイズにより数秒から数分ダウンロード可能になるまでに時間が必要となります。